

# 短篇小説の快楽

全五巻

国書刊行会

読書の真の快楽は短篇にあり。  
20世紀文学を代表する名匠の初期短篇から  
本邦初紹介作家の知られざる傑作まで、  
すべて新訳・日本オリジナル編集でおくる  
作家別短篇集シリーズ、刊行開始！

四六判・上製カバー装・平均 320 頁  
平均予価 2400 円



第1回配本  
聖母の贈り物 ウィリアム・トレヴァー

ISBN 4-336-04816-9

2006年12月刊 予価 2400円

国書刊行会

〒174-0056 東京都板橋区志村 1-13-15  
電話 03-5970-7421 ファックス 03-5970-7427  
<http://www.kokusho.co.jp>  
e-mail: info@kokusho.co.jp

わたしはこれまでの人生のほとんどを、書物との係わりにおいて過  
ごしてきたが、長篇小説はたいして読んでない。しかも、長篇を最  
後まで読み通したのは、大抵の場合、義務感にかられてである。こ  
んな訳で、わたしが常に読み、読み返していたのは短篇であった。

——ホルヘ・ルイス・ボルヘス

「自伝風エッセー」より（牛島信明訳）

# 聖母の贈り物

ウィリアム・トレヴァー 榎木伸明訳

「孤独を求めなさい」——聖母の言葉を信じてアイルランド全土を彷徨する男を描く表題作をはじめ、ある屋敷をめぐる驚異の年代記「マティルタのイングランド」、恋を失った女がイタリアの教会で出会う奇蹟の物語「雨上がり」など、運命に抗えない人々の姿を鋭利な視線と引き締まった文体でえぐりとする稀代のストーリーテラー、トレヴァーのベスト・コレクション全十二篇、第一回配本 William Trevor (1928-) アイルランド生まれ、英国在住の作家。六〇年代より執筆活動をはじめ、ジョイス、オコナーなどのアイルランドの短篇の名手の伝統を受けつぎ、リアリズムに基づく作風で知られ、世界最高の短篇作家として評価が年々高まっている。

「つまらない作品をひとつとして書いたことのないトレヴァーの驚くべき職人芸の秘密——それは、あらゆる登場人物に対して、分け隔てなく、ほとんど等距離の位置を保って書く、そして彼らをつかまえる人並みはずれたグリッパの強さだ」(若島正)

# すべての終わりの始まり

キャロル・エムシユウイラー 畔柳和代訳

私の誕生日に世界の終わりが訪れるとは……なんて素敵なの！あらゆるジャンルを超越したエムシユウイラーの奇想世界を初めて集成。鳥と人間の結婚について鳥が語る物語、失われた図書館を老女が探す話、長年憧れていた(水の番人)に会いに行く話——繊細かつコミカルな文章と奇天烈で不思議な発想が詰まった二十のファンタスティック・ストーリーズ。

Carol Emshwiller (1921-) アメリカの作家。五〇年代から主にSFジャンルで短篇作家として活躍。一九九一年には The Start of the End of the All が世界幻想文学大賞のベスト短篇集に選ばれた。二〇〇二年発表の長篇 The Mount はフイリッパ・K・ティック賞を受賞、精力的に執筆活動が続いている。

「カルヴィーノの知的遊戯性とグレイス・ペイリーの誠実さ、フエイ・ウェルドンの途方もないウィット、そしてボルヘスの純然たる輝き——それらすべてあわせもつ作家がキャロル・エムシユウイラーである。しかし彼女のような作家は他にいない」(アーシュラ・K・ルゥグウィン)

# あなたたまかせのお話

レーモン・クノー 塩塚秀一郎訳

その犬は目には見えないけれど、みんなに可愛がられているんだ……哲学的寓話「ディノ」、自分が(トロイの木馬)と言い張る馬にバードで絡まれる顛末「トロイの木馬」など、人を唖らせた異色短篇からユーモア溢れる実験作品まで、いまだ知られざるレーモン・クノーのヴァラエティ豊かな短篇をセレクト。あわせてジョルジュ・シャルボニエによるロング・インタビューを収録。

Raymond Queneau (1903-76) フランスの作家・詩人。代表作にユーモア小説の傑作「地下鉄のサジ」、究極の言語遊戯本として名高い「文体練習」などがある。コレージュ・ド・パタフィジック、ウリボといったグループで文学の実験運動を推進した。

「クノーは現在のフランスで文体と思想と独自の言語のすべてを併せ持っている唯一の作家だ。これは一人の作家にとつて容易なことではない」(ボリス・ヴィアン)

お気に入りの作家の短篇を毎晩一篇ずつ読む楽しみ。みじかい文章の中に人生の深淵を垣間見る驚き。たくみな語り口に時を忘れて没頭する悦び。短篇小説の快樂。

# パウリーナの思い出に

アドルフオ・ビオイ・カサーレス 高岡麻衣訳

最愛の女性は恋敵の妄想によって生みだされた亡霊だった——珠玉の名品「パウリーナの思い出に」をはじめ、バツカスを祝う祭りの夜、愛をめぐって喜劇と悲劇が交錯する「愛の手がかり」、無数の時空を渡り歩き無数の自己同一性を生きたる男の物語「大空の陰謀」など、ボルヘスをして「完璧な小説」と言わしめた「モレルの発明」のビオイ・カサーレスが愛と世界のからくりを解く九つの短篇 Adolfo Bioy Casares (1914-99) アルゼンチンの作家、ホルヘ・ルイス・ボルヘスの共同執筆者として「ドン・イシドロ・パロディ」六つの難事件などの作品や選集を多数刊行。一九四〇年発表の「モレルの発明」で真の幻想小説家として確固たる評価を得る。

「明晰でしかもとらえがたい曖昧さをたたえた文体、意想外の展開を見せるストーリー、巧緻をきわめたプロット、どれをとつても見事というほかはないビオイ・カサーレスの作品は多くの読者を魅了しており、今後の紹介が待たれる作家である」(木村榮一)

# 最後に鳥がやってくる

イタロ・カルヴィーノ 和田忠彦訳

語り手の視線は自在に俯瞰と接近を繰り返しながら、ひとりの女性の行動を追いかけていく——カルヴィーノの『モタン・タイムス』ともいえる実験的作品「パウラティム夫人」他、その後の作家の生涯と作品を予告する初期短篇を精選。「海に機雷を沈めたのはだれ?」「兵舎の苦悶」など、マジカルな人々をめぐるカルヴィーノのみみずみずしい語り口が堪能できるファン待望の短篇集。

Italo Calvino (1923-85) イタリアの作家。代表作にネオ・リアリズム文学の傑作「くもの巣の小道」、ユーモアと構想に満ちた寓話「不在の騎士」、メタフィクションの仕掛けを凝らした「冬の夜ひとりの旅人が」、詩的連作「パロマー」など。いまだ尽きせぬ魔術的魅力をもつ。

「(……) 私の気質はむしろ短い文章になって表れがちです。私の作品は大部分がいくつものショート・ストーリーから成り立っています。たとえば『レ・コスミコミケ』と『柔かい月』のなかで実験したような、空間と時間の抽象的な観念に明瞭な語りの効果を与えるというタイプの操作は、ショート・ストーリーのような短い円弧のなかでしか実現できないのかもしれない」(イタロ・カルヴィーノ)

↑「乱視読者の英米短篇調査」(研究社)より

◆長篇作 Leody's 書評 (Strange Horizons) 2001/4/30) より

中「サン＝ジェルマン＝テンプル入門」(法本正文訳、文遊社)より

§「遠い女」ラテンアメリカ短篇集「解説」(国書刊行会)より

◎「カルヴィーノの文学講義」(采川良夫訳、朝日新聞社)より

\*タイトル等が変更される場合があります。